

平成 26 年度

事業所名 : グループホーム たのはた虹の家

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0373000710		
法人名	社会福祉法人 寿生会		
事業所名	グループホームたのはた 虹の家		
所在地	〒028-8407 岩手県下閉伊郡田野畑村田野畑120-18		
自己評価作成日	平成 26年 6 月 日	評価結果市町村受理日	平成 26年 8月 21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/03/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0373000710-00&amp;PrefCd=03&amp;VersionCd=02">http://www.kaijokensaku.jp/03/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0373000710-00&amp;PrefCd=03&amp;VersionCd=02</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号
訪問調査日	平成26年7月1日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

\* 保健・医療・福祉の機能が集中する敷地にあり、スムーズな連携体制がとれ安心して生活できる環境にある。  
\* 海の幸、山の幸に恵まれ、そこから季節を感じ生活できる環境にある。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は法人が運営する特別養護老人ホーム、生活支援ハウス、デイサービスセンター等と棟続きの総合施設に併設され、役場や診療所とも隣接している。職員は今年度の理念検討を行っており、基本理念の主旨は替えず「これからの人生も燃やせ」という新たな目標を定め実践に取り組んでいる。広報による情報発信や地域との定例的交流に加え、老人クラブへの事業所の説明会開催をきっかけに、新たな馴染みの関係構築にも努力している。運営面では入居者に聞き取り式でアンケート調査を実施し、調査結果を運営推進会議に報告、意見等を運営に反映、サービスの向上に活かしている。防災訓練は法人の年間計画に加えて、事業所独自に実践的な訓練を毎月実施している他、地域防災協力者を委嘱し地域との協力体制を築くなど地域の認知度も上がっている。また、今年度はじめての試みということで、家族との交流懇談会をゴールデンウィークに合わせて開催し、遠方在住者が多いなかほほ全て家族が参加していることは特筆される。地域の保健・医療・福祉が集約された立地環境を活かしながら、家族や地域との新たな協働関係を目指していくことが期待できる事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほほ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほほ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほほ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほほ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほほ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

[評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会]

事業所名 : グループホーム たのはた虹の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は目につくところに掲示し、日々意識をしなが ら支援している。昨年、職員にアンケート方式で今 一度理念について見つめ直し、変更した。	理念の主旨はこれまでと変わらないが、職員で話 し合い「ぬくもりと安らぎを提供する」を光り輝く人 生を送れるよう「これからの人生も燦々と」に見直 し、目につくところに掲示し、思いを新たに理念の 共有、実践に努めている。	理念の目指すところは何か等について、 定期的に話し合う機会を設け、理念の意 図を実践に活かそうとする姿勢は大いに 評価できる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に交 流している	小学校・保育園の運動会参加、村の祭りへ出かけたり、 理美容院、産直へ出向いている。移動販売も利用。5月 に保育園へ出向いて昔の遊びをする交流の計画をして いたが、感染症の流行により秋に実施予定。寿生会広 報・GH独自の広報を発行している。GHを知ってもらう為 地域の老人クラブ集会で説明、交流の機会を設けた。	広報による情報発信や小学校・保育園の運動会 や村祭りの観覧等定例化した交流に加え、老人ク ラブへの法人及び事業所の説明会開催をきっか けに、役場のOB会からも説明会開催の希望があ るなど、地域との交流も進展している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の 人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて 活かしている	地域の老人クラブ集会で寿生会のサービス内容を 説明・交流の機会を設けた。相談を受けた際は貢 献できるよう体制を整えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、 評価への取り組み状況等について報告や話し合 いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かし ている	入居者の状況や活動を報告している。会議で取り 上げられた事項やグループホームからの相談につ いて話し合い、意見をもらい実行している。	会議では、利用状況や活動・行事等の報告のほ かアンケート調査結果の報告や地域の人々と密 につきあうにはどうしたらよいか等課題を提起して 助言を得られるよう工夫しており、情報やアイディ アの提供を運営に活かしている。	メンバーの提案に基づいて新しい交流関 係も生まれる等、地域との関係づくりの起 点ともなっている。話し合いのなかでも楽 しさや気軽さなど、自由な発言をしやすい 雰囲気作りを工夫し、より創造的な話し合 いができるよう今後期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所 の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝 えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に出席しており、状況報告をしてい る。月1回地域ケア会議が行われており計画作成 担当が出席している。それ以外でも必要時に随時 連絡を取れる間柄にある。	行政の担当者は運営推進会議のメンバーであり、 積極的な情報提供をしているほか介護認定の更 新、機器レンタル等協議や月1回の地域ケア会議 が行政や他の事業所等と情報交換のできる貴重 な機会となっており、協力関係も築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指 定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解して おり、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケア に取り組んでいる	当然しないという認識、意識のもと日々援助してい る。時々これも拘束になるのだろうか？等と声に出 し再認識することもある。8月に内部研修予定、外 部研修も視野にいれている。玄関にセンサーコー ルを設置し安全且つ拘束しないケアに努めてい る。	毎年の法人内・外研修や研修報告等により身体 拘束の弊害について正しい理解と意識の共有に 努めている。また、利用者を制限することになる言 葉の拘束等についても気がついた時点で話し合い 身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法につ いて学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内 での虐待が見過ごされることがないように注意を払 い、防止に努めている	毎年内部研修をしている。入浴介助など、日常業 務の中で身体に変化等ないか確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎年内部研修をしている。個々の必要性の話し合いはしていないが、必要時には法人内で相談に乗っていただける体制にある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に見学して頂いたり、双方で思い違いのないように心がけて説明させて頂いている。アンケートを4月に実施し改めて説明不足等なかったか家族より意見を聞いている(交流会で口頭でもお聞きしている)。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・苦情窓口を設置している。入居者にはアンケートを実施、アンケートは入浴時等利用し、普段の会話の中から聞いている。ご家族等からは懇談会を実施した。その他にも面会時や電話連絡時等話しやすい環境づくりに努めている。結果は職員間で共有、推進会議で報告し、運営に反映させている。	入居者については入浴時を利用するなど日常会話の中で聞き取り式でアンケート調査を実施し、家族等とは懇談会を開催して調査し、結果を運営推進会議に報告し、意見等を運営に反映、サービスの向上に活かしている。	遠方の家族が多く普段なかなか事業所を訪れることが難しいことを配慮し、交流会をゴールデンウィークに開催しほとんどの家族が参加して盛況に行われている。家族からは次年度の開催も希望されており、非常に意義のある場面であったことがうかがえる。今後も家族との結びつきを様々な工夫の中で深めていってほしい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議の際に意見や提案を聞く機会を設けている。また、内容によっては個別に代表者と話すこともある。	会議等の際に意見や提案を聞く機会を設けているほか、所長は毎日のように事業所に足を運び入居者、職員に声をかけ対話や情報収集の機会としている。また、必要と判断される事項は随時相談し運営に反映させており、職員の意見により事故防止のためベットが新しいものに交換されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は時々、所長はほぼ毎日事業所に足を運び、入居者・職員に声をかけている。所長へ管理者・主任より必要と判断した案件は随時、報告・相談している。資格取得や研鑽、向上の為の研修等に配慮して頂いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	同上		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ブロック定例会、研修会、交流会に可能な限り参加している。情報交換をしサービスの向上に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申し込み・見学時傾聴し、希望に添えるよう、また、信頼関係が築けるよう努めているが、初期段階で核心部分に触れることは難しいと感じている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	同上		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申し込みの時点ではほとんどの方が何かしらのサービスを受けている(特養の申し込みも済んでいる方も多し)。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	季節に合った行事、行事の準備、食べ物のごしらえや保存方法を聞きながら一緒に行っている。ゲームをしたり、オセロをしましょう、等の入居者からも提案で活動することも多々ある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族通信や面会時に近況報告、相談は必要時に電話をしている。いつでも要望を聞ける体制にあり、共に支えるよう努めている。家族交流会もっており、今年は懇談会も開催した。また、今年度も1回開催したいと考えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの移動販売や理美容院を利用している。馴染みの友人が時々訪問してくれる。友人がホームを訪問できるよう職員が支援し、関係が継続されている。今年は墓参りを計画している。また、地域のイベントにも参加予定である。	馴染みの移動販売や理美容院を利用しているほか友人が利用者を訪問しやすいよう支援したり、地域のイベントの復興祭、村民文化祭、歳末助け合い等に参加し知り合いに会うなど、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	地域とのつきあいで、老人クラブや役場のOB会との交流が始まり、ボランティアや趣味を通して地域資源を活かした、新たな馴染みの関係がつけられるような取り組みを期待したい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の状況、また変化等あった際、パソコン入力や申し送り職員間で情報共有を図り、中立な立場で支援に努めている。歩くことが出来ない方や女性入居者が男性入居者のお茶を注ぐ、茶碗を洗う、車椅子を押す、下膳する、体調不良時に「どう？」と声を掛ける等、入居者同士が支えあっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今までそういう場面はなかった。今後そのような場面があれば相談・支援に努めたい。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話、行動、表情よりくみ取るよう心掛けている。また、アンケート方式を利用し、思いを聞き取るようにしている。更にその思いをご家族に伝えるようにしている。	入浴等1対1の時間が話しやすく、日々の暮らしの中で何か思いがある様子、サインを注意深く観察して会話、行動、表情から汲み取るよう心掛けている。更に、利用者の思いをアンケートでも聞き取っており、終末期における本人の希望などが語られている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の聞き取り、他でサービスを利用している場合には情報を頂くこともある。また、日常生活から得ることもある。更に訪問者から何気ない会話で得ることもある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間で情報共有、計画に沿った記録を含め、細かく記録することで情報把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のケースのまとめ、カンファレンスを行い、現状確認・必要・改善等の意見を出し合い、継続、変更を行っている。計画は“出来る事”へ視点をおき立てている。	担当者がアセスメントし、主任と管理者で計画を起草、利用者毎の計画を一覧表にした資料を基にカンファレンスを行い、現状の確認、計画の継続、変更の必要性等について検討、本人の意向や家族等のアイデアを反映しながら現状に即した介護計画を作成している。また計画見直し時には本人にも説明し、了承を得ている。	計画の内容検討は主任と管理者、担当職員の3名が主となって行っている。この検討に担当以外の職員意見も何らかの形で反映できると、支援内容が客観性を増し、より多面的・創造的になっていくものと思われる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	変化等気付いた際は、記録をし、重要事項は日誌に載せつつ申し送りを行い、カンファレンス、又は随時情報共有し計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物、通院、理美容院、自宅への付き添いを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	2と同じ。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望するかかりつけ医にて健康診断・定期受診で状態把握をしていただいている。基本的には家族同行の受診となっているが、不可能な家族が殆どで職員が代行している。必要に応じ、受診結果を報告・又は相談している。重要案件時は同行して頂くこともある。時間外でも要請があれば往診して頂いている。	かかりつけ医は殆どが隣接の診療所で、健康診断や定期受診で状態把握してもらっており、昼夜なく往診してもらえるほか、様々な機会を利用者の健康を気にかけてもらっている。基本的には家族同行の受診としているが、家族の都合で殆ど職員が対応しており、受診結果を報告している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設の看護師に相談でき、支援して頂いている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	来診したり、必要であれば電話をするなど情報交換に努めている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	色々な状況が想定できるので、早い段階での話し合いは行っていない。そのような状況になった、あるいは状況になりつつある時に医師、家族、本人、事業所で相談しそれぞれが納得のもと、チームで支援に取り組んでいる。アンケート方式でその時の意向を本人より聞いている。	家族には重度化したときは併設の特養入所を希望しているケースが多いが、車いすになったら退去してもらおうということではなく、個々の状況や要望に応じて対応する方針としている。医療処置が必要でなければ要望に応じて看取り対応もチームで支援できるように取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	4月に急変時の内部研修を行った。心肺蘇生法は10月に実施予定である。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月訓練を実施している。地域防災協力者の体制がある。	毎月具体的項目を定めて、災害を想定した実践的な訓練を実施しているほか法人の年間訓練計画があり、同法人寿生会の合同訓練5回、隣接保健センターも参加する総合保健施設合同訓練を4回実施している。また、法人では地域防災協力者(7名)を委嘱し地域との協力体制も築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報他入居者や外部の方々の目につかないところに置いている。又、書類を捨てる際にはシュレッターをかけている。トイレ誘導時、配慮した声がけ、訪室の際ノックをする(居ない時は入ることを事前断り)その方々にある対応を心掛けている。	個人情報に関わるものは職員以外の目につかないところに置いている。また、小声でのさりげないトイレ誘導や訪室の際のノックや事前断り、好みは方言か標準語かなど、本人を理解した上での言葉かけや対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で希望を出しやすいような会話を心掛けている。希望・要望はアンケートを利用し、引き出す努力をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限り沿うようにしている。デイ利用者に会いに出かける、自販機に飲み物を買に行く等している。起床・就寝時間は決めておらず自由。皆さんゆったり、のんびり過ごすことが好きなようでそういう時間を大切にしている(年々…)。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時には衣類を着替える、その際には本人の好みを聞きながらコーディネートの手伝いをしている。髭剃りをしたり入浴後、化粧水やクリームをつける方もいらっしゃる。おしゃれの日として化粧をする日を設けた。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普段から昼食メニューの希望を訊いたり、誕生会にはその方の食べたい物を提供している。一緒に出掛け好物を買って食事もする。バイキング形式、バーベキューもしている。毎食一緒にテーブルで食事を摂る、下ごしらえ・盛り付け・味付け、洗い物も一緒に行っている。	誕生会には食べたい物を提供するほか、買い物に出かけたり、バーベキューをしたり、畑の収穫物をメニューに取り入れるなど、食に関心を持てるよう工夫をしている。また、時にはおやつ作りや下ごしらえ、盛りつけ等できることを手伝ってもらい、職員も一緒に食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調や状態を考慮したり、医師の指示のもと一人一人に合わせた形態や量を提供している。管理栄養士よりメニューのチェックを受けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	夕食後の歯磨き、義歯洗浄は毎晩行い、不十分な方へは仕上げも行っている。歯科受診をしている方は衛生士より磨き方の指導を受け、介護士が行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排便チェックを行い、状況把握に努めている。コンスタント、且つスムーズに排泄できるよう水分摂取・服薬・散歩・乳製品の摂取等をしている。日中は時間を見計らって誘導する方もいる。又本人の様子から察知しアイコンタクトで介助する方もいる。	排便チェック表などでパターンを把握し、水分摂取・服薬・散歩・乳製品の摂取等体調管理に配慮しながら、一人ひとりの力を活かして排泄の自立に向けた支援に努めている。トイレ誘導の利用者は一人だけで、他の方は夜も含めて自分でトイレを利用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	同上		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1日おきの入浴が基本となっているが、希望があれば毎日入浴できる。早い時間を好まない方は最後にと時間の希望にも沿っている。入浴を拒みがちな方に対しては時間をおいて誘う、人を替え、言葉を替えてチームで工夫した対応をしている。村内にある浴場へ出かけた。	1日おきの入浴となっているが、疲れるとの訴えがある人は2日おきにしている。入りたがらない利用者は、時間をずらしたり誘う人や言葉を替えたり工夫し、また、希望により村内にある浴場(ホテル羅賀荘)へ出かけたり、個々の意に添った入浴の支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床・就寝・昼寝とも自由にできる環境にある。心地よく休めるよう日中の活動に配慮したり、寒い時は湯たんぽなど使用する方もいる。昼夜逆転傾向のある方は活動・薬・精神を総合的に把握し原因を探りアプローチしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬手帳や個人台帳で確認できるようになっている。朝・昼・夕に個々で分けて保管、服薬時では傍で見守り、呼名・朝昼夕の薬であると声に出し渡す、確認の徹底を行っている。それでも口に運ぶ際落とすことが頻繁な方へは口に入れて援助している。変更の際には日誌や掲示板入力をし、申し送りも周知となるまで続けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの得意分野で役割が持っている。ドライブ、買い物、散歩、馴染みのデイ利用者に会いに行く、将棋を楽しむなどの支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、買い物、理美容院への付き添いをしている。車椅子でもご家族と連携し選挙に出掛けたり、イベントにも出かけている。8月には墓参りを計画している。ご家族と食事等の外出や外泊をする方もいる。	日常的な外出としては法人の敷地内の散歩や買い物であるが、季節や希望に応じたドライブのほか、理美容院の利用、地域のイベントにも出かけている。また、家族の協力を得て外食や外泊を楽しむ利用者や、投票所まで同行し、帰りは家族と帰ってくる利用者もいる。	



自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理をできる方がおらず、又生保の方で持てばあるくらい一気に使う方もあり、基本小遣いはGH管理としている。が、必要時にはいつでも使えるようにしており、移動販売や自販機、近くの薬局に行き買う方もいる。時々買い物で出かけ、ご本人が支払う援助をしている。本人所持のお金を持っている方もいる。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	宅配便が届いた後や連絡で電話をした際、本人と話をしてもらったり、近況報告をすることがある。ご家族から電話がくる方もあるが、そうでない方はこちらからアクションをおこす努力をしている。一方でそれを望まないであろうご家族もある。	
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花を活けたり壁を飾り季節感を出したり換気・温湿度や、臭いに配慮している。又、日中でも暗いと思われる場所では常時電気を点けている。トイレや浴室等分かりやすいように表示をしている。	厨房と介護員室を囲むように廊下とホールがあり、食堂と小上がりがある。ホールには大型のテレビが備えられており、食卓を囲んでテレビ鑑賞や談笑するなど、思い思いに過ごしている。また、厨房からの調理の音やにおいが生活感を醸しだし、玄関に飾られた七夕飾りも季節感を感じられ、換気や温湿度等環境への配慮とともに家庭的雰囲気のもとで安心感のある居心地良く過ごせる場となるよう工夫されている。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	好きなように過ごしてもらっている。周りの雑音が多い時は離れたソファで本を読んでもらったり、隣や気の合う同居者の部屋にお邪魔し談笑する方もいる。少し離れた場所へソファを置いたり広報や雑誌を置いたりしている。	
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビや鉢植え、ぬいぐるみ、遺影や家族写真、裁縫道具を置いている方もいる。丸椅子を置き楽に座れるようにしている方もいる。	居室には押し入れと暖房機が備えられ、ベットや寝具は利用者が馴染みの物を持ち込み使用している。また、テレビや好みの鉢植え、ぬいぐるみ、遺影や家族写真を置きその人らしい居室づくりがなされ、居心地よく過ごせる工夫がされている。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・浴室の表示、手すりの設置、見える場所に物干しや台所が共有スペースから見える場所にあり、調理音等で米とぎや茶碗洗いが解る環境。履物の工夫や杖を使用しなくても移動できる環境。掃除用具等、定位置に置かれている。	